

温泉の温暖化対策研究会・紙上シンポジウム

「温泉における熱利用の課題と展望」

熱利用の課題と展望

出席者

●コーディネーター

日本環境衛生センター会長  
(温泉の温暖化対策研究会会長)

奥村 明雄氏

●パネリスト

前・環境省自然環境局自然環境整備課  
温泉地保護利用推進室長

中島 尚子氏

中央温泉研究所専務理事

甘露寺 泰雄氏

日本温泉協会会長

大山 正雄氏

日本温泉協会常務副会長

佐藤 好億氏

循環型社会推進センター理事長  
(温泉の温暖化対策研究会事務局長)

吉田 可紀氏

ホテルサンバレー那須 接客総括支配人

岡本 吉広氏

日本には、全国に約2万8千の源泉、3千を超す温泉地がある。この温泉の持つ熱資源を有効活用し、地球温暖化対策や地域活性化に役立てようと、国も支援力を入れている。環境新聞ではこの「温泉の温暖化対策研究会」の協力を得て、「温泉における熱利用の課題と展望」をテーマに紙上シンポジウムを開催した。同研究会会長の奥村明雄(中央温泉研究所)と専務理事の中島尚子(中央温泉研究所)をコーディネーターに、温泉の熱利用に取り組む事業者や専門家をパネリストに、温泉熱利用の現状や課題、普及に向けた展望について議論した。

奥村 地球温暖化が現時点で注目を集めている。実は懸念されている。今、日、温暖化対策の削減、幸い、環境省もその重要性に心を配っている。重要事項として、お話をいただき、さまざまな施策が行われていることを始めたいと思います。す。温泉熱のガス化、再生可能エネルギーの活用は極めて重要な政策課題となっており、さまざまな対応策が取り上げられています。私どもは、日本が世界に冠する温泉大国であることを鑑み、この温泉熱を活用することが、現実的、最も効果のある対策であるばかりでなく、温泉施設のコスト削減、温泉地の活性化といった一石三鳥の効果



奥村氏



甘露寺氏



大山氏

高い方が発電に適しています。その温度が高い温泉は、その温泉地でも一番うまみがあるところ、そこが狙われるという厄介な問題があります。また技術的には、スケールの問題が厄介です。セルフヒーティングという地下で温度が高い場所ほどいろいろなスケールがついてきます。もう一つ温泉の集中管理に取り組んで分かったことは、必要な時に、必要な場所に、必要な量を

配るには、エネルギーシステムが重要だということ。エネルギーも熱も同じ。また、日本は火山国であるから、地熱発電をやるにはいいという考え方があります。これは、海に水がたぐりあがるから、地球の水問題は解決するということと同じです。私の結論としては、地熱発電は火山の方を向いていかなければならない。エネルギーは、地熱が主体だ。40℃前後の温度の熱を回収して何かに利用する。これは地熱発電が持っている大きな問題点です。温泉発電では、温度が

温泉熱活用は「一石三鳥」の効果  
温泉発電の開発は急がず、ゆっくり  
温泉の枯渇に結びつく地熱開発は再考を

奥村

甘露寺

大山

月刊 ビジネスアイ エネコ  
地球環境とエネルギー  
2017年12月号  
定価1,440円(税込) 年刊購読料15,552円(税込)  
日本工業新聞社  
〒100-8125 東京都千代田区大手町1-7-2  
TEL 03-3273-6044  
FAX 03-3270-8257  
E-mail: bi-eneco@sankai.co.jp

温泉の温暖化対策研究会のご案内  
わが国は、全国に温泉が存在する温泉大国で、その熱エネルギーの活用は、温暖化の防止と地球環境の保全に貢献するばかりでなく、温泉施設のコスト削減を通じ、温泉施設の経営安定化と地域おこしに貢献する等一石三鳥の効果を上げることが期待されています。このため、学識経験者、温泉自治体、温泉団体、メーカー、コンサルタントが温泉の温暖化対策研究会を設置し、調査、研究、普及啓発、各種要請活動等の活動を行っています。



